



日研生E-だより 第14号

筑波大学 日本語・日本文化学類

2019年12月4日

修了生のみなさん、お元気ですか。『日研生Eだより14号』をお届けします。日本では今年5月に「平成」に代って、新元号「令和(れいわ)」になりました。また来年7月には、「東京2020」夏季オリンピック・パラリンピックが56年ぶりに日本で開催されることになりました。これら新しい時代の幕開けにちなんで、本号では、2018年度の日研生のメッセージの他に、「修了生は今」という特別企画で、日本や世界中で活躍している日研生修了生のメッセージをご紹介します。

《2018年度日本語・日本文化研修留学生の修了式》



前列左から:

- ・カヤ(スロベニア)
- ・グスタヴォ(ブラジル)
- ・ヒョンウク(大韓民国)
- ・アン(ベトナム)

2019年度日研生の出身国は次の通りです。

出身国名	人数
ベトナム	1名



2019年9月26日
2019年度日研生オリエンテーション →



■ 2018年度担任の沼田善子先生と副担任の竹沢幸一先生からメッセージをいただきました！

沼田善子先生



みなさん、お元気でお過ごしですか。担任を務めた沼田善子です。

9月の修了式から既に2ヶ月が経ち、季節も移りました。朝晩は厚地のコートを着ないと寒い今からは、残暑の残る真夏のような気温の中での修了式が懐かしい気がします。修了式での少し緊張気味の表情や、修了祝賀会での晴れやかなみなさんの顔が思い出されます。

2018年度の日研究生は、ベトナム、スロベニア、ブラジル、韓国からの4名でした。それぞれの母国とは気候も文化も異なる日本での留学生活は、日常生活でも、大学での勉学でも、戸惑われることが多かったことと思います。

日・日学類のオリエンテーションでは、どこか落ち着かない様子のみなさんでしたが、私が考える以上に早く、つくばでの生活に慣れ、大学での授業に日々、熱心に取り組んでおられましたね。きっと、実際には、それぞれに、問題に直面し、時に学類生チューターと、時には日研究生同士で、協力し合って、問題を解決されたこともあったのだらうと思います。学類生チューターの協力に感謝していますが、何より、日研究生のみなさんの頑張りに敬意を表します。学類生にとっても、みなさんへのチューター活動を通した「異文化交流」の中での貴重な経験が、日・日学類でのその後の学びの深まりにつながると思います。

後半の2019年春学期では、修了論文執筆が生活の中心になりましたね。わずか1年の留学期間で、しかも日本語での「修了論文」執筆がどれほど大変な作業だったか、容易に想像できます。その中でみなさんは、各分野の専門の指導教員の先生方と、大学院生の論文チューターに支えられながら、それぞれに充実した内容の論文を書かれました。「研究」をするとはどういうことか、それを「論文化」するとはどういうことか、それぞれのテーマに応じた専門領域で具体的に学んだ成果が、みなさんのそれぞれの修了論文です。中には、今後、もう一度大学院生として日本に留学し、研究を深めてもらえたらと思う力作もありました。修了論文集『異文化との出会い 29号』は担任である私にとって大きな財産ですが、みなさんにとってもそうであることを願います。

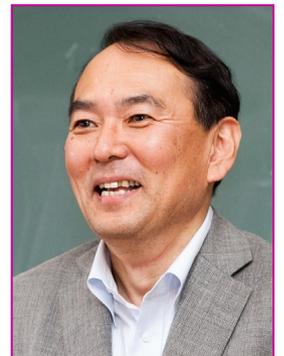
帰国されて、みなさんはそれぞれ、卒業論文の執筆等、母国の大学での勉学に向き合っておられることと思います。筑波大学での留学経験が、少しでもみなさんの助けになってくれることを願っています。

みなさんのこれからのご活躍を期待しています。

竹沢幸一先生

修了生の皆さん、お元気ですか。副担任をしていた竹沢です。早いもので、皆さんがつくばの地を去ってからもう2ヶ月余がたつてしまいました。再び母国での日常生活に戻り、つくばにいた頃のことも遠い記憶になっているのかも知れません。

留学の良さは、単に留学先のことを学べるというだけでなく、自国、自文化のことを振り返るきっかけを与えてくれる点だと思います。留学を通して自国の良いところも悪いところもいろいろと見えてきたはずです。自分の国の良いところと悪いところの両面をバランス良く見極めることができるようになるのはとても大切なことだと思います。留学を通して身につけたそうした両面的な視点をもって自分の周りを眺め、それを是非周りの人たちに伝えるようにしてみてください。



今年度は日研究生がベトナムからの1名だけになってしまいました。日研究生のための私の授業は毎週マンツーマンでとても中身の濃い授業をしています(^-^)。修了式後の祝賀パーティーでもお願いしましたが、修了生の皆さんには是非筑波大学の日研究生プログラムの良さを宣伝してもらいたいと思います。もっと多くの学生が筑波大学の日研究生を希望してくれるようになるとうれしいです。

最後になりますが、皆さんの益々の活躍を祈っています！



■ 2018年度日研生に聞きました！

今年9月に修了した日研生4名に次の質問をしたところ、全員からお返事をいただきましたのでご紹介します。

1. あなたが日本/筑波大学で一年間日研生として過ごした感想や、心に残る経験・思い出などについて教えてください。
2. あなたの帰国後の現在の様子を知らせてください。(近況報告、帰国後に日本での生活を振り返って思うこと、など)

🌸 チャン ティ ラン アン さん (ベトナム出身、ハノイ国家大学外国語大学在籍) TRAN, Thi Lan Anh



1. 日本へ留学することは子供頃からずっと持っていた夢です。高校を卒業して大学に入らず、日本語センターに通っていました。ところが、日本の留学の書類にトラブルが出て、結局行けなくなってしまいました。しかし、その時の私は諦めず、ベトナムの外国語大学に受験し、入学して日本で留学するチャンスを待っていました。交換留学の奨学金がもらえるように一生懸命勉強しました。やっと、夢が叶って日研生プログラムに参加し、日本に行くことができました。嬉しい限りでした。

私はあまり海外経験がなくて、初めて日本に行くので心配しましたが、少しずつ慣れてきました。住んでいた宿舎、毎日学校へ行く途中で通った並木の道、いつも寄ったスーパーや店、いつの間にか自分の日常の一部になっていました。一年間日本で色々なことが体験できました。ずっと見てみたかった紅葉、雪や桜が全部実際に見たり触ったりできて、素晴らしいと感じました。そして、色々な国からの留学生と友達になって、食事会、カラオケに行ったり、それぞれの国の文化や習慣について話したりして、楽しく過ごしました。また、面白い授業もたくさん受けて、見学に行ったり、書道を書いたり、演劇をしたりして、いい思い出ができました。

日本はいいこともあれば良くないこともあります。その全てがいつも私を驚かせてくれました。日本で一緒に笑ったり泣いたりした人たちは一生忘れられません。そして、この一年間、日本のことを見たり触れたりしたことで、自分の知らなかった自分を発見し、無意識に作ってしまった限界を超えたような気がしました。もし、誰かに聞かれたら、「つくばに行けて本当に良かったです！」と答えます。いつも支えてくれた先生方、そして日研生の皆さんにお礼は一言では言い切れません。皆さんとの縁をこれからもずっと大切にしていきます。

2. 母国のベトナムでは最近寒くなってきて、もうすぐ冬を迎えます。つくばにいる友達のFacebookでは、イチヨウの葉が金色になった写真が映っていて、とても素敵です。日研の皆さんは元気に過ごしていますか。私は4年生の前期が終わって、もうすぐ大学ともお別れで、少し寂しいです。これから、卒論を書きながら、就職活動をする予定です。色々悩みはありますが、勉強も仕事もしっかり頑張ります。そして、近い将来、日本で皆さんと再会できることを楽しみにしています。



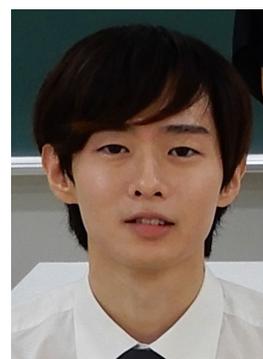
祝賀会の時に、お礼の挨拶をしました。

🌸 ツチヤ グスタヴォ キム さん (ブラジル出身、サンパウロ大学在籍) TSUTIYA, Gustavo Kim

1. 私は日研生として日本に行って、いろいろなことを学んで、たくさんの大切な思い出もできて、色々な面で成長しました。

日本に着いた時から、同期の日研生を含めて、留学生を支えてくださった筑波大学の方々、とても優しく、いろいろなことを手伝ってくださいました。そのおかげで、一人暮らしの不安が徐々になくなりました。皆さんの優しさに触れて、自分も誰かのためにできることをもっと前向きに考えるようになりました。

筑波大学の学園祭はとても楽しくて、パッと開く花火を今もはっきりと覚えています。先生、チューターと日研生の皆さんと一緒にいった研修旅行は、久々の見学旅行だったので、とても楽しい



思い出になりました。



手作りの抹茶大福

私は元々和菓子づくりが好きですが、ブラジルではなかなか和菓子の材料が手に入りません。しかし、日本では和菓子の材料が安く、簡単に手に入るのので、暇な時で餅や大福を作ったりしました。また、京都に行ったときに、京菓子資料館に行くことができ、京菓子の文化と歴史について学びました。帰国後の今でも、和菓子の歴史や種類について、本を読んだりしています。

自分に正直であることで、日本でも大切な友達ができ、生活がもっと楽しくなりました。春休みに、大阪と名古屋で勉強している友達に会いに行くことができ、街を案内してくれて、大雨の中でも日差しの中でも遊んで、楽しい思い出をたくさん作りました。また好きな歌手のコンサートを初めて見に行くこともできて、コンサートで知り合った新しい友達と、

今でも仲良くさせてもらっています。

担任の沼田先生と副担任の竹沢先生の下で、日本の様々なことを学ばせていただきました。また、論文指導の谷口先生は優しくご指導くださったおかげで、論文を執筆し、無事に完成することができて、大変感謝しております。これからも日本で身につけた習慣と知識を大事にしていきたいと思えます。

2. 来学期、サンパウロ大学に復学することになります。卒業するまで日葡翻訳の勉強会に参加したいと思います。日本で過ごす間、将来に対する不安がなくなっし、いろいろな悩みも解決できたので、一日一日が楽しくなりました。これからいろいろなことをもっと積極的に挑戦していきたいと思えます。



日研生のアンさんと奈良公園の鹿と一緒に



キム ヒョンウク さん (韓国出身、威徳大学在籍) KIM, Hyeon Uk



1. 最初、日研生として筑波大学で生活できるかどうか、悩みが沢山ありました。しかし、私たちを見守ってくださった筑波大学の教員やチューターの皆様のおかげで、無事に日本の生活に適應しました。

私は一の矢学生宿舎に一年間住んでいました。宿舎を拠点として、周りのお店や公園など歩き回ると筑波大学ならではの魅力の一つでした。

授業は基本的に教室で行われましたが、「日本語・日本文化実験実習」や総合日本語「プロジェクトワーク日本語 A」の授業では、東京江戸博物館や成田山、川越市など有名な場所を詳しい説明を受けながら、日本文化と接することができ、色々勉強になりました。

また、日研生は修了要件の一つである修了論文を作成しなくてはなりません。初めて論文の話を聞いた時、何から始められればいいのか全然わからなくて迷いました。でも、先生方、論文チューターの皆さんのサポートで、無事論文を完成することができました。

今振り返ると、1 年間の留学生活はあっという間に終わってしまい、寂しい気持ちもありましたが、無事に修了できて本当に良かったと思っています。日本に感謝します。

2. 韓国では 9 月に入って夏休みが終わり、新しい学期が始まりました。私は 9 月の下旬に帰国しましたが、担当の先生の配慮で授業への出席が認められ、今、無事に大学を通っています。

一年前、私が日本で留学できることは夢にも思いませんでした。所属している大学の先生の推薦で、日研生プログラムに挑みました。書類審査の時、自己アピールするため、過去に受賞した履歴を申請



研修旅行で食べた成田のうなぎは美味しかったです！

書に詳細に書き込みました。また、筆記試験の日に領事館で集合した学生たちが分厚い日本語の本を持って勉強する場面を見て、「さすがみんな、がんばってるなあ！」との記憶が未だに残っています。もちろん、私も不足していると思っていた日本語の単語を集中的に勉強してきました。幸い、勉強したがいがあって、無事に合格して日本留学の夢を叶えました。

将来、私は在大韓民国日本国大使館などにて、この留学のチャンスをくださった日本に恩返しができるように、日韓両国の発展に努めたいと希望しています。



カウツッチ カヤ さん（スロベニア出身、リュブリャーナ大学在籍） KAVCIC, Kaja



1. 去年、日研究生として1年間筑波大学で留学しました。この1年間の留学生生活を振り返ると、自分に多方面で勉強になり、大人として成長するチャンスになったと思います。来日したばかりの頃、新しい環境でプレッシャーを感じたこともありました。特に授業の課題や日研究生の修了要件である修了論文などで悩まされました。スロベニアにいた頃、論文を書く経験があまりなかったからだと思います。しかし、論文をご指導くださいました松崎先生や論文チューターの酒井さんのおかげで、無事に修了することができました。

筑波大学で日本語や日本文化の授業他に、芸術の授業も受けました。授業でグループ活動がたくさんあり、留学生だけではなく、日本人の学生とも一緒に活動したりしました。様々なことに

ついて話しているうちに、自信を持って日本語が使えるようになりました。

一番楽しかった思い出は、一の矢学生舎の生活でした。一の矢学生舎では毎日のように友達と待ち合わせて、一緒に周りのお店や公園など美しい場所を見に行きました。私にとって、この留学生生活は非常に大切な経験になりました。それで、日本の皆様、言葉で伝え切れないほど感謝しています。

2. 9月に帰国してから、今無事にリュブリャーナ大学に復学しました。これから筑波大学で日研究生として研究したことを卒業論文に含めて書き下す予定です。また、日本語の勉強もずっと続けたいと思います。この1年間で、色々なものを見て、理解し、色々な人に出会って、そしてたくさんの経験をしました。これから、私が経験したことを色々な人に伝えられるように頑張ります。



修了論文を指導してくださった松崎寛先生と
論文チューターの酒井晴香さん



■ 修了生は今

日本や世界中で活躍している2005年度と2009年度の日研究生修了生3名から、メッセージが届きました。筑波大学日研究生修了生は、様々な形で日本と本国、そして世界との架け橋になっていますよ♪

コタル アンジェ (KOTAR, Anže) さん（スロベニア出身、当時リュブリャーナ大学在籍、 2005年度日研究生 / 担任: 嶺井明子先生、副担任: 千本秀樹先生)



日研究生として留学していた頃からもう10年以上が過ぎて、記憶もだんだん消えていきますが、最初の印象はまだ残っています。

最近、雨の時に近くの公園を歩いていると、周りに甘い香りのする木があると気づきました。私にとってその甘い香りは筑波大学の最初の思い出です。成田空港から平砂学生舎共用棟（現: 平砂生活センター）に着き、秋の小雨のなか車から降りると、そのあたりの木から甘い香りが広がっていました。日本での生活の印象や思い出は他にも自然と繋がっています。帰国してから、日本の何が好きかと多くの人が聞きます。なかなか難しい質問ですね。料理、電車、きれいな街路など並べられても、長い秋といつも答えます。寒くも暑くもない晴れの日には花火大会へ行けば、必ず風景を楽しみました。

最初に留学生センター(現:学生交流課)から日本語・日本文化学類を探して大学のキャンパスを歩いた時、ビルが左右にそびえて外観が似ていたので、少し迷ってしまいました。その途中では図書館とはわかりませんでした。キャンパスの中で、それが一番感動したビルでした。各階で書棚の間を歩き回っていると、探していた小説、最新の雑誌、知らなかった論文などに目が引かれます。興味のある知識、最新の知識、まだ出会っていない知識ですね。

今、フリーランスの通訳をしています。この仕事は、図書館で書棚を歩き回ると少し似ていると思います。つまり、何が起きるか予想できません。話し手が何を言うか、聞き手がどのように理解するか、初めて聞いたことをどのように通訳するか・・・となれば、誤解の可能性が必ずあります。事前に準備はしますが、全ての知識があるわけではありません。その時に何を、どうスムーズに伝えるか、経験がなければ難しいかもしれません。経験とは、実際に様々なことに会うことです。日研生も授業に出たり、宿題をしたり、レポートを書いたりすることは当然ですが、日常の暮らしに特に心配することがなくて、自由な時間も結構あると思います。それは、日本にいる間に、色々なことを経験するビッグチャンスです。また、留学した後で何をしたいかを考え、興味があることと関わるスキルを鍛えることなどをすればいいと思います。

通訳以外に『万葉集』を翻訳しています。それを翻訳する理由を今も考えています。現在と違う世界ですから、うまく翻訳しても理解するのが大変なので、読む人が少ないのかもしれませんが、しかし、重要なのは、読むか読まないかということではなくて、その人が読めるということです。もし読みたい人が少しでもいたら、そのために翻訳すれば良いのです。残念ながら、日研生の時にそれに関わる授業を履修していませんでしたが、修了論文の参考文献を探している時に、図書館である論文を偶然見つけました。内容は上代日本語で、飛鳥・奈良時代の日本語の音声体制を主とした万葉仮名が説明されていました。当然、万葉集の歌もその時代に詠まれました。帰国して数年後に上代日本語を研究して修士課程を修了しました。2019年5月に日本の年号が「令和」になることを知りました。『万葉集』からの出典だと聞いて嬉しく思っています。私が翻訳した第1巻、第2巻の訳本はスロベニアの国家図書館のデータベースに収録され、母校のリュブリャナ大学の日本学科にも寄贈しました。万葉集の第3巻の382・383歌では、「築羽乃山・・・」という表現が表れて、「なるほど筑波山だ!」とすぐ理解しました。筑波山に何回も登って、景色や神社も覚えていて、翻訳が少し楽になりました。おもしろいですね。日研生として経験したことがこのような場合でも役に立ちます。



車窓から見た晩秋の筑波山



リマ ハファエレ ジャファアー ソアレス (LIME, Raffaele Jaffar Soares) さん (ブラジル出身、当時リオデジャネイロ連邦大学在籍、2005年度日研生 / 担任: 嶺井明子先生、副担任: 千本秀樹先生)



誘致活動中のリマです

Olá! Muito prazer. (オラ、ムイント・プラゼール! ポルトガル語では「はじめまして」の意味です。

私はリマ・ハファエレと申します。ブラジルのリオデジャネイロ市で生まれ、2005年~2006年に日研生として、筑波大学で1年間勉強しました。私が筑波大学で得られた経験と留学後、どのような道を歩んできたか、みなさんとシェアしたいと思います。

日研生として1年間経験したことは私の視野を広げ、新しい道を開き、私の人生に大きな影響を与えました。日本政府や筑波大学のおかげで、素晴らしい学習環境の中で、様々な国の留学生と一緒に、日本語をはじめとして語学力をスキルアップできました。また、日本の大学の世界を知ることができました。授業のエクスカッションや個人旅行を通じて、日本各地の素晴らしいところへも行くことができ、日本文化についてより深く触れることができました。また、留学中に、つくば市国際交流協会にて翻訳・通訳ボランティア活動などの体験を通して、日本語コミュニケーション能力や、日本文化を肌で学びました。これらの経験は私にとって最高の宝物です。

帰国後、大学を卒業して、2007年に日系総合商社のリオデジャネイロ支店に入社し、通訳及び調整・交渉の担当、日本人職員の出張への同行、商品の輸出入分野の業務を担当し、二か国間の経済関係の発展に貢献することができました。その際、日本の企業文化や日本人とのコミュニケーションの取り方を日々学習しました。

商社での勤務は非常に有意義なものではありませんでしたが、更に多くのことを学びたいため、3年間の勤務後、2011年(財)自治体国際化協会JETプログラム事業に応募して採用され、石川県小松市の経済観光文化部国際都市推進課の国際交流員として、5年間小松市役所に勤務することになりました。その間、小松市の姉妹都市関係事業をはじめ、様々な分野で地域の国際化・国際交流推進といった重要な業務を任せられました。

JETプログラムの任期満了後、2016年に石川県庁に入庁しました。現在、スポーツ振興課内の東京五輪・パラリンピック事前合宿誘致・受け入れを担当する部署で働いています。

石川県は東京五輪の事前合宿候補地として誘致事業に力を入れています。誘致競技は、カヌー、トランポリン、ウエイトリフティング、水泳、レスリング、空手の6種目です。現在の部署では、海外チームからの問い合わせの窓口になっており、毎日の業務は翻訳や通訳が大部分を占めます。その他、スポーツ振興課の同僚と相談しながら、海外チームのスケジュールを組んでいます。

私が任された最初の仕事は多言語パンフレットの作成でした。競技団体に対して地域や競技場の情報を、ポルトガル語、英語、スペイン語で提供します。競技団体は母国語の資料があると安心します。パンフレットの完成後、たくさんの誘致活動ができるようになりました。来年、東京五輪・パラリンピックの本番です。母国ブラジルをはじめ、たくさんの国際団体が合宿に石川県を訪れます。選手たちと県民との交流、選手たちが素晴らしい日本文化との触れ合いなど一層努めていきたいと思えます。

このように、自分の仕事を通じて、石川県の魅力を世界中のトップアスリートに発信できることはとても嬉しく思っています。そして、スポーツを通じて、石川県の子供たちがもっと多文化社会を理解し、将来海外へ羽ばたけるよう頑張りたいと思います。筑波大学での留学経験がなければ、このような素晴らしいチャンスに巡り合うことはできないと思います。この経験を

与えてくれた日本文部科学省、日本語・日本文化学類の先生、チューター、友達のみなさんに心から感謝しています。

日研生の皆さん、筑波大学に在る間に授業はもちろん、授業で得られた日本語能力・日本文化の知識をぜひ日常生活に精一杯活かしてみてください。もし将来日本と母国や世界との架け橋を目指しているのならば、ぜひ勉強以外にも、友達、サークルや観光の機会をたくさん作ってみてください。今の時間はとても大切です！筑波大学に在る時が皆さんにとって有意義な時間となるように願っております。



サムライ体験中のオリンピック選手



◀ 2005年度日研修了式の時の記念写真 ▶

担任の横井明子先生(最前列右端)、副担任の千本秀樹先生(同列右から2番目)
アンジェさん(最後列左端)、リマさん(3列目右から2番目)



ゲン ティ マイ フォン (NGUYEN, Thi Mai Phuong) さん

(ベトナム出身、当時ハノイ貿易大学在籍、2009 年度日研究生 / 担任: 朴宣美先生、副担任: 谷口孝介先生)



長男です。

ご無沙汰しています。2009 年度の日研究生のマイフォンです。皆さん、お元気ですか。

今からちょうど 10 年前に、日研究生として初めて来日しました。10 年前に、友人から「つくばは田舎だよ！」と聞かされた時に、日本の田舎文化に魅力を感じて、日研究生の受入大学一覧から筑波大学を選びました。今、振り返ってみれば、私の人生を大きく変えた運命的な選択だったと改めて実感しました。

まず、それから 10 年後の現在の私について報告します。まだつくばにいます。筑波大学の人文社会科学研究科を修了した後、今筑波大学の国際室で働いています。毎日、あの有名なイチョウ並木の下を歩いて大学に通っています。10 年前にお世話になった留学生センターの職員は、今は私の上司と同僚です。そして、プライベートでは、10 年前につくばで出会った日本人の男性と 6 年前に結婚し、子供 3 人にも恵まれ、家族 5 人でにぎやかな毎日を過ごしています。

先月、日研究生の同期とつくばで再会しました。当時の思い出話を語り合いました。10 年も経ちましたが、何一つも変わっていないかのように、楽しく話をしました。また、10 年前にお世話になったベトナム人の先輩とも、今、時々一緒に仕事をしています。仕事が終わったら、昔と今のつくばについて、活発的に情報を交換しています。

「つくば、そして筑波大学との縁は、切りたくても切れないものです。」とよく冗談で言っています。日研究生としての 1 年間は、日本語と日本文化を学ぶ貴重な機会だけでなく、私の人生に大きな影響をもたらした多くの出会いに恵まれた機会を与えてくれて、心から感謝しています。そして、つくばは、地味に素晴らしい地であり、良い意味での「田舎文化」が引き継がれ、人と人の繋がりを大事にしている場所だなあ、と 10 年後改めて感じました。

これからもつくばにいます。どこかで皆さんとお会いできることを楽しみにしています。



10 年前に当時の日研究生をはじめ、仲良くさせていただきました留学生の皆さんと一緒に撮った思い出の詰まった記念写真



■ 思い出のワンショット

2018年9月27日 2018年度日研生オリエンテーション

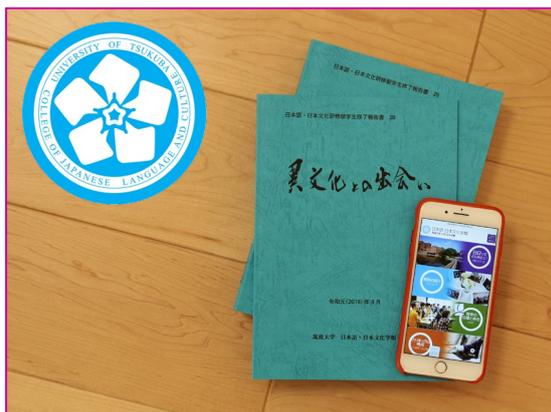


2018年11月24日 日研生研修旅行



2019年9月10日 2018年度日研生修了式・祝賀会





2019年12月4日

1992年以來29号に亘りました『異文化との出会い』の冊子版が29号で終刊となりました。終刊号では日日カラーである水色を表紙に、フィナーレを飾りました。

今までご支援いただき、心よりお礼を申し上げます。本学類において、これからも日日の特色を生かした日研生教育活動を一層展開してまいりますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

「日研生 E-だより」も第14号になりました。皆さんからのお便りをお待ちしております。

筑波大学 日本語・日本文化学類

HP <http://www.japanese.tsukuba.ac.jp/>

Twitter @Nichinichi

Facebook <http://www.facebook.com/tsukuba.nichinichi>



日本語・日本文化学類長室

nichi2_office@un.tsukuba.ac.jp

※メールアドレスが変更になった際にはお知らせください。